

第12章 教育プラン

1 横浜市立緑園西小学校

平成26年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

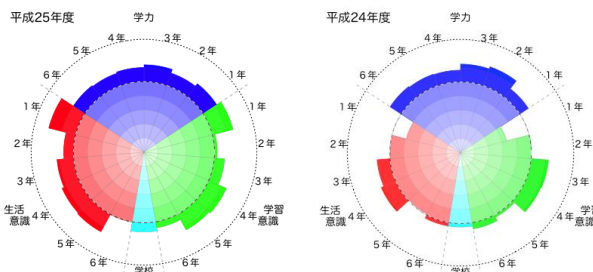
- (1) 授業研究を中心とした教員の研究・研修は定着してきている。研究仮説をもとに育てたい児童の姿をテーマに位置付けた研究を進めたり、人権教育、特別支援教育など喫緊の課題を学ぶ研修を定期的に行ったりしている。
- (2) 経験の浅い教員が多く、基礎的な指導技術をより一層身に付ける必要がある。
- (3) 特別な教育的支援が必要な子どもへの対応が充実してきている。指導体制が整い、支援がきめ細かにできている。
- (4) 一日の家庭での勉強時間1時間以上の子どもの割合が4割以上、また半数近くの子どもの家庭で塾や家庭教師で勉強しており、家庭における学習環境が十分に整っている。
- (5) 教育ボランティアを活用した学習を積極的に取り入れ、学校・家庭・地域との連携による学習を推進している。

2 今後3年間の方向（中期学校経営方針）

学力向上に関する指導の目標・方針（平成27年度末の姿）

- 身に付けさせたい力を明確にし、豊かなかかわりを通して、主体的に問題解決できる授業展開を工夫することで、思考力・判断力・表現力の育成が図られ、学習意識がさらに向上しています。
- 教師は「分かる」授業ができる指導技術を一層身に付けています。
- 学年研究会や教科研究会、メンターチーム研修を通して、実践的な研修・研究を組織的にを行っています。

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成26年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

全ての学年が高い学力を示している。学習意識・生活意識についても、横浜市の平均とほぼ同等か、高い意識を示している。

「学校の授業が分かりやすい」という子どもが多い。また、平成24年度は、「自分の考えを発表している」と答えた子が横浜市の平均より少ない傾向があったが、平成25年度は、平均と同じくらいかそれ以上の学年が多くなった。学習課題を明確にし、授業改善を行ってきた結果が表れてきたからであろうと考える。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：全般的に市の平均を上回る力をもっている。特に読む力が優れている。
- 算数科：全般的に市の平均を上回る力をもっている。特に知識・理解は優れている。
- 社会科：全般的に市の平均を上回る力をもっている。特に知識・理解は優れている。
- 理科：全般的に市の平均を上回る力をもっている。特に知識・理解は優れている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学校全体として、学力はかなり高い。学習意識や生活意識も高い傾向にある。学校の授業が分かりやすいと答えている子ども、YICAの活動、「横浜の時間」での学習が好きだと答えている子どもの割合も高い。家庭での学習習慣が確立しており、家庭学習の時間も十分であること、それが学校での学習態度の形成にも役立ち、意欲的に課題解決に取り組んでいることが学力の定着につながっているものと考えられる。

また、自分の考えを様々な形、場で表現する活動への取組に積極性が見られるようになってきた。しかし、友達の考えをしっかりと受け止め、互いに伝え合うことで思考を深めていく学習にはまだなっていない。これは、相手に的確に伝えようという意識が高くないためであると考えられる。この点を、授業改善、授業研究の視点としていきたい。

4 平成26年度 目標と具体的方策

平成26年度 目標

豊かなかかわりを通して、主体的に問題解決できる授業展開の工夫

学校組織としての共通の取組み

○ 課題解決型学習の実施

身に付けさせたい力を明確にした上で、毎時間の学習課題を設定し、自分の考えを根拠をもって書いたり相手に伝えたりしながら、学習課題を解決していける授業を行う。

○ 研究・研修の充実

年間一人1回以上の研究授業を行う。学年研究会や教科研究会においては、学習過程の内容と手立ての研究や評価計画、模擬授業等授業力向上のための研修を中心に行っていく。

○ 体験と言語活動を大切にした授業

1 学年

- 具体的な活動や体験を通して身近な人々や自然とのかかわりを深めるとともに、絵や文に表し、伝える場面を位置付ける。
- 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話する。

2 学年

- 生活科等で、体験を通して自分の生活について考えられるよう報告する文章を書いたり、相手に応じてわかりやすく説明するなど、表現活動を大切にするとともに話し合いをする場面を位置付ける。
- 大事だと思った点を確認めたり、関連した情報を提供したりしながら話し合う。

3 学年

- 社会や理科では、疑問をもとに、「体験」「実験」「発見」を大切に授業を展開し、分かったことや考えたことをまとめて発表したり、話し合ったりする場面を位置付ける。
- 理由や根拠を尋ねたり、まとめたり補足したりしながら話し合う。
- 列挙したり、順序を付けたりして考える学習を計画的に行う。

4 学年

- 算数・理科等で説明する文章、記録、報告する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 反対の意見を出したり、相手の考えを取り入れ自分の考えを述べたりしながら話し合う。
- 順序を付けたり関連付けたりして考える学習を計画的に行う。

5 学年

- 総合的な学習等で説明する文章、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 相手の話を一般化したり、経験を加えて拡張したりしながら話し合う。
- 関連付けたり、分類・整理したりして考える学習と振り返りを行う。

6 学年

- 今まで身に付けた様々な文章を書く力を自主的に生かすことができるようにするとともに、話し合いをする場面を意図的に位置付ける。
- 曖昧な点を明確にしたり、違った視点を打ち出したりしながら共通点を話し合う。
- 関連付けたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習と振り返りを行う。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設けるようにする。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行うようにする。
- 子どもに応じたわかりやすい情報発信をするなど、言語環境の整備を行うようにする。